

§ 4. 課題解決への取り組み

(1)「安全管理の意識付け、救護技術の習得」への対応

【応急救護(職員向け)】

メディック・ファースト・エイド(MFA)講習 (職員向け)	
目的	多くの自然体験プログラムは、野外はじめ様々な環境下で実施されることから事故のリスクが内在するため、実施者の応急救護技術修得は必須である。救護のグローバルスタンダードであり、最新の知識を更新しているMFA講習を受講し、応急救護の知識・技術を習得する。
対象者 及び受講者数	おぢかアイランドツーリズム協会職員 4名
日程	1日間 平成21年3月9日(月)
場所	福岡県北九州市 玄海青年の家
講師	MFA JAPAN 鍵谷 祥光氏
内容	【MFA ベーシックプラスコース】 CPR(心肺蘇生法)、出血への対処、のど詰まりへの対処、AED(自動体外式除細動器)の使用法など
総評	【MFA 講習のポイント】 ・呼吸停止から、10分が生存率の分かれ目であり、初期対応がポイント ・AEDの有効性 以前より消防署に依頼しての救急講習は行っていたが、今回受講したMFAは非常に現実的な手法を分かりやすく習得できる内容であった。医療設備を持たない小値賀のフィールドでの課題点を整理し、対策を検討する必要がある。 <追記> 今回修得した知識・技術については、後日、島民インストラクターへのフィードバック作業を行う。

【メディック・ファースト・エイド(MFA)講習 (職員向け)風景】



CPR(心肺蘇生法) 1



CPR(心肺蘇生法) 2



搬送法



止血法



AED(自動体外式除細動器) 使用法 1



AED(自動体外式除細動器) 使用法 2

【応急救護(島民インストラクター向け)】

メディック・ファースト・エイド(MFA)講習 (島民インストラクター向け)	
目的	多くの自然体験プログラムは、野外はじめ様々な環境下で実施されることから事故のリスクが内在するため、実施者の応急救護技術修得は必須である。当協会職員その他、プログラムに参画し、監督・指導する立場になる島民インストラクターに対し、基本となる応急救護技術を習得してもらい、不時への対応能力の全体的強化を図る。
対象者 及び受講者数	島民インストラクター 民泊協力者 16名
日程	1日間 平成21年3月20日(金)
場所	小値賀町 離島開発センター
講師	MFA JAPAN 緒方 隆二 氏
内容	【MFA ケアプラスコース】 CPR(心肺蘇生法)、患者の観察法、のど詰まりへの対処、通報までの手順など
総評	<p>野外活動には、リスクが内在することを参加者に認識してもらい、危機管理に対する意識を高めることに非常に有効だったと考えられる。また、技術の習得が顧客を守ると同時に自分の責務であり、また自らを守ることにつながることを理解できたと考えられる。</p> <p>【受講者の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いざという時に役に立つと思う。 ・今後とも定期的に行うべき。 ・全インストラクターに講習を受けさせるべき。 ・今まで何も知らなかったが、受けてよかった。 <p><追記> 今後、自然体験プログラム参加者へのリスク注意喚起の方法についても島民インストラクター等と意見交換し、適切で効果的な方法を検討し、実践する。</p>

【メディック・ファースト・エイド(MFA)講習 (島民インストラクター向け)風景】



基礎講義



基礎講義(VTR 解説)



CPR(心肺蘇生法) 1



CPR(心肺蘇生法) 2



のどつまり対処法



体位変換法